

腸管出血性大腸菌（<sup>オー</sup> O103）、（<sup>オー</sup> O157）感染症患者の発生について

このことについて、次のとおりお知らせします。

記

1 患者の発生状況

(1) 事例1 (O103)

- ①患者 市内在住の女兒（10歳未満）
- ②経緯 6月 23日 腹痛が出現した。  
24日 発熱、下痢が出現し、医療機関を受診し処方を受けた。  
同日、検便を実施した。  
26日 血便が出現し、入院した。  
腸管出血性大腸菌O103（VT1）感染症と診断された。
- ③症状等 現在、入院加療中。快方に向かっている。

(2) 事例2 (O157)

- ①患者 市内在住の男性（70歳代）
- ②経緯 6月 19日 腹痛及び軟便が出現した。  
23日 医療機関を受診し処方を受けた。同日、検便を実施した。  
血便が出現した。  
26日 腸管出血性大腸菌O157（VT1VT2）感染症と診断された。  
同日、入院した。
- ③症状等 現在、入院加療中。快方に向かっている。

2 患者及び感染源調査

- (1) 患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- (2) 患者の健康状況調査を実施

3 対応

- (1) 患者及び接触者に対し衛生教育を実施
- (2) 患者自宅等の消毒を指示

4 参考 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況  
別紙のとおり

## 【参考】

## 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況（患者数）

	2020年	2019年 同時期	2019年 総数
	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)
O157	5 (本事例を含む) (3) (本事例を含む)	3 (1)	17 (3)
O26	2 (1)	4 (4)	9 (5)
O91	2 (0)	0 (0)	1 (1)
O103	1 (本事例を含む) (1) (本事例を含む)	0 (0)	0 (0)
O100	1 (1)	0 (0)	0 (0)
O8	0 (0)	0 (0)	1 (1)
O76	0 (0)	0 (0)	1 (0)
O87	0 (0)	0 (0)	1 (0)
O182	0 (0)	1 (0)	1 (0)
腸管出血性 大腸菌感染症 計	11 (6)	8 (5)	31 (10)

## 予防対策について

○食べ物は十分加熱しましょう

特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう

○手洗いと消毒を徹底しましょう（調理の際、食事の際、トイレの後など）

○下痢等の症状がある場合は、速やかに医師の診察を受けましょう